

令和4年度 苫小牧市立沼ノ端中学校 学校評価

教育推進の指標	未知なるものに果敢に挑戦する自立の精神にあふれ、連帯と共生の豊かな心と活力あふれる人を育てる(自立・連帯・共生)				
学校教育目標	「高い知性」 「豊かな心情」 「強い身体」	・積極的に学習する生徒 ・責任をもってやりぬく生徒 ・苦難を克服する生徒	・合理的に思考する生徒 ・思いやりが深く感謝する生徒 ・健康に心がける生徒	・創造的に表現する生徒 ・勤労を尊び感謝する生徒 ・安全に行動する生徒	
育成を目指す資質	問題発見・解決能力 言語能力 思考力・判断力・表現力 情報活用能力 学ぶ意欲 共生 思いやり 感謝の心 コミュニケーション力 協働 貢献				
学校経営方針	1 生徒が主体となる令和の日本型学校教育の構築 2 働き方改革の一層の推進と教育の質の向上 3 小中一貫型CSを目指す信頼される学校づくり				
学校経営の重点	社会に開かれた教育課程(カリキュラム・マネジメント) 人材育成(教師力の向上) チーム学校づくり(組織力強化) 教育の質の向上(働き方改革の推進) 信頼される学校づくり(地域とともにある学校)				

重点目標	推進内容	自己評価			検証結果	学校評議員の評価		改善策
		生徒	保護者	教員		評価	意見	
育 社 成 会 で 活 き る 力 の	1 学校は学ぶ意欲や考え判断し表現する力を育む生徒主体の授業を行っている。	3.3	3.1	3.2	思考力判断力表現力の育成を目指す授業、話し合いや発表機会、学び直しの時間の確保により学力が向上している。	3	授業のあり方を工夫し、学力が向上している点を評価する。一方不登校生徒の増加が非常に残念である。学校経営の見直しを図り、生徒を向き合える学校づくりを期待する。また、異学年交流が課題である。コロナ禍の影響で難しいことも理解できるが、生徒の日々の成長を考え、学校全体で推進していく必要がある。	生徒の可能性を最大限に引き上げるため、継続して授業改革(主体的対話的深い学びの時間、ICT活用、探究型の授業等)を進めていく。安心、安全な居場所づくりとして学級・学年づくりを重視し、生徒に寄り添う指導や家庭、関係機関とのつながりを深めた対応を重ねる。また、学年、学校のほか多様な人との関りの機会を着実に広げていく。
	2 総合的な学習の時間の地域学習やキャリア教育では社会や未来を担う力を育んでいる。	3.3	3	2.5	学びを広げたり深めたりする時間が拡充されつつあるが、職場体験や探究型の体験学習の充実が不可欠である。	3		
	3 学級学年は、生徒一人一人の個性が生きる集団づくりや仲間づくりが行われている。	3.3	3	3	いじめ防止への意識が高まり、概ね良好な集団づくりが維持されているが、不登校生徒の割合が増えている。	3		
	4 生徒会活動はよりよい学校づくりに向け自発的な活動を行い生徒の自己実現を支えている。	3	3.2	3.2	学年内の交流が増え、より良い学校づくりに向けた自主的取組が広がっているが、異学年交流は十分に確保できていない。	3		
	5 生徒一人一人の特性に配慮した教育活動や多様な人との交流学習がよく行われている。	2.8	3	3.1	特別支援教育の充実や通常学級における特性に応じた対応や合理的配慮の浸透が求められている。	3		
育 健 豊 成 や か かな 心 身 と 体 の	6 道徳の授業では心の在り方やよりよい生き方を広く見つめ生徒の豊かな心を育んでいる。	3.5	3.1	3.1	考え議論する授業づくりを通し、多様な価値に向き合うことに生徒が関心を高め、豊かな心を育んでいる。	3.3	心身ともに大変難しい時期に良い教育環境にあることが認識できる。いじめ防止への生徒、保護者の意識が向上している。コロナ禍で閉鎖等の支障もあったと思うが、その後の対応により教育活動が保障されている。今後も感染対策と教育環境の充実を図ってほしい。	感染症対策と学びの保障の成果を生かし、連携して生徒の自立と共生できる力を育てていく。そのため教科横断的な視点に立ち、豊かな心を育む道徳の時間、自主的実践的な力育てる特別活動、生きる力を育む総合的な学習の時間を充実させ、授業を通して生徒の資質・能力を伸ばす。
	7 学校は家庭や地域と協力して、きまりを守り、自立し、共に支え合える生徒を育成している。	3.6	3.1	3.2	全般生徒の自主自律、共生の資質・能力は高まっているが、一部に心配な声も届いており、家庭、地域と連携強化が不可欠である。	3.3		
	8 学校は家庭や地域と協力して、いじめのない心の通い合う学校づくりに取り組んでいる。	3.3	3	3.6	教員、生徒の意識よりも保護者の危機意識は高く、安全安心な居場所づくりが急務である。	3.3		
	9 学校は地域と協力して、自他の生命や健康安全を大切に授業や教育活動を行っている。	3.5	3.2	3.3	9月に学級閉鎖が続いたが、感染対策の継続により教育活動を確実に実施することができた。	3.3		
推 学 信 進 校 頼 づ さ く れ る の	10 中学校は9年間を見据えて小学校との接続を大切に学習指導や生徒指導を行っている。	3.3	3	2.8	エリア会議での情報共有や共通行動が広がり、生徒に円滑な接続を目指す学習や生活の取組が浸透している。	3	小中9年間、生徒のメンバーが変わらずに育つ沼ノ端では、三位一体(学校、保護者、町内会)が地域の子供たちを育てていく姿勢を今後もより活発に取り組んでほしい。また、学校だよりやPTA活動などを通じて、わかりやすい学校経営を進めることを期待する。	令和5年度からのコミュニティ・スクール(沼ノ端小中学校運営協議会)を地域連携・協働の主体として地域とともにある学校づくりを進めていく。さらに、小中9年間の円滑な接続を目指す教育課程を編成するためのエリア会議を充実させるとともに学校の公開機会を拡充していく。
	11 学校は保護者や地域に学校の情報をわかりやすく積極的に公開している。	3.2	3.1	2.8	一方向の情報発信に偏らないように双方向の意思疎通を図る機会や場面の確保が必要である。	3		
	12 学校は生徒のために一生懸命学び指導力を高め保護者や地域の声に真摯に対応をしている。	3.6	3	3.2	生徒には学校の姿勢が伝わっているため、保護者にまで見える学校公開や意思疎通の在り方を工夫する必要がある。	3		
	13 部活動は生徒や教員の健康安全に配慮し自主的自発的な活動が効果的に行われている。	3.3	3.1	3.1	働き方改革の推進、部活動の地域移行、少子化の影響で新たな放課後の活動のあり方が模索されている。	3		